

侵入警戒、早期発見による新奇病害虫のまん延防止

福島県農業総合センター 生産環境部作物保護科

1 部門名

その他ーその他ー病害虫発生、病害虫防除

2 担当者

岡崎一博・荒川昭弘・三田村敏正・山田真孝・松木伸浩・宍戸邦明・鈴木洋平、安全農業推進部

3 要旨

本県農作物に発生する病害虫のまん延を防止するため、新奇病害虫の発生や生産現場で判断が難しい病害虫等の診断・同定に対応し、防除指導の一翼を担っている。2006年からの5年間の依頼件数は956件となっている。その中で新奇病害虫の発生確認は11件（うち2件は国内初）と増加（2005年までの前5年間は3件のみ）しており、引き続き、侵入警戒（図2）による早期発見・早期防除が必要である。

- (1) 依頼内容（果樹を除く）をみると、野菜類及び花き類の病害が多く（図1）、土壤病害虫やウイルス病の防除に苦慮している実態が明らかになっている。
- (2) 新奇病害の発生は、ピーマンモザイク病(PMMoVP1,2,3)、トルコギキョウえそ輪紋病(IYSV)、トマト黄化葉巻病(TYLCV)、トマト葉かび病(レース4.9.11)、リンドウ黒斑病、トマトのポテトスピンドルチューバーウイロイド(PSTVd)の6件が確認されている。
- (3) 新奇害虫では、タバココナジラミバイオタイプQ、プラタナスグンバイ、アルファルファタコゾウムシ、アワダチソウグンバイ、ユキヤナギハマキシダニ（仮称）の5件が確認されている。
- (4) 近年、タバココナジラミバイオタイプQとトマト黄化葉巻病（写真）のように、侵入害虫と保毒するウイルス病のまん延防止対策が重要となっている。

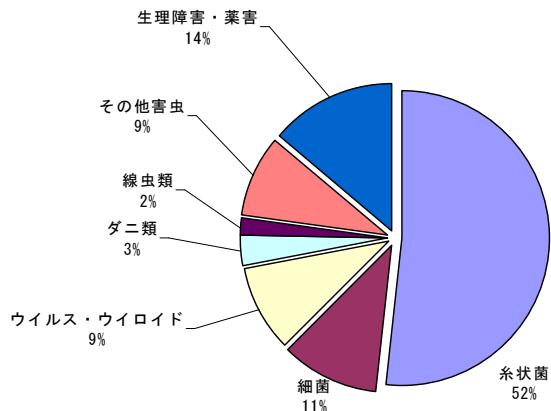


図1 病害虫診断・同定結果の要因別割合
(2006-2010年)

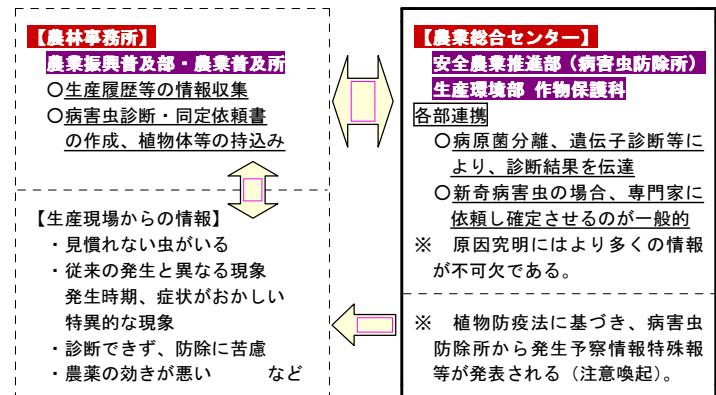


図2 新奇病害虫の警戒と情報の共有化



4 主な参考文献・資料

- (1) 平成18～22年度センター試験成績概要
- (2) 平成18～22年度植物防疫年報